

テーマ：『 ビオトープの充実と授業への活用 』

横須賀市立 夏島小学校

Tel. 046-865-3616 担当者： 宮井 厚子



■実践内容：

ビオトープで「やってみたいこと」を考え、課題別に児童のグルーピングをしました。「植物であそぼう」、「作って食べよう」、「たね」、「ザリガニ」、「外来生物」、「こん虫」、「水生動物」、「鳥」、「カメ」の9つのグループに分かれ、それぞれのグループの課題にそって活動しています。ビオトープの植物や生き物調べは全員で行い、デジカメに収めたり、スケッチをしたりしています。活動結果は「夏島小ビオトープのガイドブック」としてまとめていく計画です。新聞を作って定期的に自分たちの活動報告を行うグループもあります。子供たちのやってみたい活動の一つであった校庭にある「かしわが池」の改修も始まりました。水生植物を植えるなど、生き物のすみか作りの準備を始めています。現在は、タネが飛ぶ前にと、勢力を広げている外来植物のセイタカアワダチソウを根から抜く作業を終えたところです。

■実践成果：

交尾しながら飛ぶイトトンボ、高い木の枝でオニヤンマをとらえて食べるハラビロカマキリ、交尾した後に食べられてしまったオスのカマキリ、脱皮直後はきれいな緑色をしているギンヤンマのヤゴ、葉の裏に卵からかえったばかりの無数の幼虫、金色に光るジンガサハムシ、マリモッコリとニックネームを付けたくなくなったウマノシガタという植物等々、遠くから眺めるだけだったビオトープの自然を小さな昆虫の目線で見ると子ども達の姿が見られるようになりました。池にいるたくさんアメリカザリガニやアカミガメなどの外来生物についての問題点にも気づき、「命のつながり」という視点からビオトープの自然に関心を持ち始めていることを感じます。改修の始まった池では、周囲に自分たちの手で水草を植えたり、三浦メダカなどの水生動物を増やしたりという取り組みに意欲的な姿が見られます。泥の中に生きていたドジョウやヤゴを見つけ、「このままでも良かったのではないか」という疑問を持った児童もいました。

■実践ポイント：

ザリガニ捕りや昆虫採集、植物観察、ヨモギ団子・きょうらぶき作りや草花遊びなど、活動を通して命のつながりに気付きかせ、自然を大切にする心を育てたいと考えました。そのためには、自然に親しむ活動の時間を十分にとることを第一と考え、実践してきました。また、自分たちで池の改修を行ったり、ビオトープの手入れをしたりすることによって、これから先の変化を見届けたい、見守っていききたいという気持ちを持たせることが、これからの地域の自然を守る担い手を育てることにつながると考えています。